

『 医 療 安 全 』

日本赤十字放射線技師会
副会長 清 水 文 孝

総括

「放射線技師と医療安全」。この言葉は、率直な意見として我々放射線技師にはなかなか馴染みのない言葉ではなかったでしょうか。このように思うのは私だけでしょうか。会員各位の施設においても、医療安全に主としてかかわっていられるのは看護師でしょう。平成11年、12年と相次ぐ死亡事故を契機に、平成13年厚生労働省の指導の下、医療安全の推進が図られました。赤十字本社においても医療安全の推進室が設けられ、各施設に指導が行われたと思っております。しかしながら、放射線技師の認識はまだまだ低いように感じられます。日本赤十字放射線技師会では、本社にて開催されてまいりました医療事故分析に役員を派遣し、医療安全の推進に参画しております。また、ここで分析された医療事故情報をホームページにも掲載を行い、医療安全の推進の一助となっているものと思われま

す。今回電子会誌として発刊するに当たり、医療安全をテーマとして取り上げ、赤十字本社医療安全室の最所課長に「放射線技師と医療安全」と題し執筆をお願いいたしました。また、会員各位の施設に配信されている医療安全知恵の輪を編集し掲載することといたしました。いずれも医療安全に放射線技師がどのように関わって行くのか、他の職種がどのように関わっているのか、ご一読いただくとともに部内運営の一助としていただければ幸いです。

特集記事

1) 「医療安全と放射線技師に期待する役割」

日本赤十字社 事業局 医療事業部医療安全課長 最所浩美

2) 医療安全知恵の総集編 (平成21年1月～平成21年12月発刊)

* 医療安全知恵の輪につきましては、リポジトリ登録にあたり、他の刊行物等でも発信しておりますので割愛させていただきました。

3) 日本赤十字社医療安全推進会議報告 (ホームページ掲載済)

— 過去2年間の放射線に関するインシデント事例と分析報告 —

日本赤十字放射線技師会 医療安全担当 辻 秀憲